空中からの写真で見る有珠山の近況

北海道開発局のヘリコプター「ほっかい」による、撮影 2006 年 6 月 30 日　北大理　岡田弘、

写真 1　北西上空から見た有珠山全景。噴火から 6 年経過した現在、緑がかなり回復してきている様子がうかがえる。手前は洞爺湖、右後ろは噴火湾（太平洋）．洞爺湖温泉町(中央)やその背後の金毘羅山西部で治山工事が進展。西山麓中央火口（NB 火口）の白煙も僅かで、裸地も僅かになってきている。北海道開発局ヘリコプター「ほっかい」より、2006.6.30 北大岡田弘撮影。

写真 2　洞爺湖温泉(左中央)と金毘羅山(中央右)を西上空からのぞむ。砂防・治山工事が進んでいる。活発だった金毘羅山地区の二つの火口は、空色の有君瑚（KA）と緑色の珠ちゃん瑚（KB）に変貌した。被害を受けた協会病院の建物も撤去され、小学校の跡地にビジターセンターが建設中。北海道開発局ヘリコプター「ほっかい」より、2006.6.30 北大岡田弘撮影。

写真 3　治山工事が進む潜在ドームの金毘羅山西部の近況。2003 年 9 月の十勝沖地震で KA 火口瑚の湖水は一時加熱され温泉となったが、2006 年に入り水位が数メートル下がり、温度も低下した。KA 火口は、北海道開発局ヘリコプター「ほっかい」より、2006.6.30 北大岡田弘撮影。

写真 4　有珠山観光の名所「西山麓中央火口（NB）」。一般観光客は、西山麓遊歩道をたどり第 1 展望台（写真左上角）まで近づき観察できる。2006 年に入り火口内壁北側も激しい地熱域となった。空中からの赤外温度計によると最高温度は 153.8℃、火口縁では今まで最高の 237.1℃（岡田純による、2006.4.29）で、周辺部の冷却進行とは異なり、NB 火口の温度低下は認められない。北海道開発局ヘリコプター「ほっかい」より、2006.6.30 北大岡田弘撮影。

写真５　上空から見た 2000 年新山の火口群と地熱域。変動域は、ほぼ円形の明るい色の裸地となっている隆起中心部、左上に伸びる地熱拡大域、僅かな白色噴煙を上げる NB 火口(中央右)、下り坂が隆起してできた西新山沼（中央上)、隆起変動で破壊された建物群（中央下）など、特徴的な姿を示している。北海道開発局ヘリコプター「ほっかい」より、2006.6.30 北大岡田弘撮影。

写真 6　有珠山北西の珍小島地区の近況。有珠山に近いこの地域に６棟の公営住宅と保育所が移転した。中央右には運用ま近い移設国道２３０号線のトンネル入り口がみえる。この地域では３本の道路が移設・新設された。北海道開発局ヘリコプター「ほっかい」より、2006.6.30 北大岡田弘撮影。